

# 医工連携事業化推進事業

平成31年度予算額 **27.3億円 (30.4億円)**

J-Startup

## 事業の内容

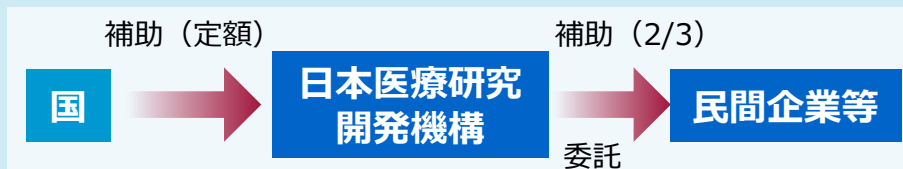
### 事業目的・概要

- 日本が誇る「ものづくり技術」を活かした医療機器の開発・事業化とともに、技術を有する中堅・中小企業やベンチャー等の新規参入、医療機関との連携（医工連携）を促進し、我が国の医療機器産業の活性化と医療の質の向上を目指します。
- 医療現場のニーズに応える医療機器について、我が国の高度なものづくり技術を活用し、医療機関等との連携による開発・事業化を支援することで国内外の市場拡大、獲得又は開発医療機器の利用による医療費の適正化を促進します。
- 文科省や厚労省及び関係機関等の連携による『医療機器開発支援ネットワーク』を通じて、開発初期段階から事業化に至るまで、専門コンサルタントとの対面助言（伴走コンサル）等による切れ目ない支援を実施し、異業種からの新規参入や早期事業化を促進します。

### 成果目標

- 平成26年度からの事業であり、平成32年度までに、本事業実施者により開発した医療機器等の上市件数100件を目指し、医療機器市場を3.2兆円へと拡大することを目指します。

### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



## 事業イメージ

### 《医療機器開発・事業化支援》

■ものづくり中小企業、医療機関等との共同体(コンソーシアム)により行う、医療現場のニーズに応える医療機器の開発・事業化を支援します。

・補助対象経費上限：8千万円/年 ・補助率：2/3、事業期間：最長3年

### 製品化事例（胸腹水ろ過濃縮装置）

- 事業者は産業機械から医療機器分野への新規参入企業。
- 医療機関と開発初期から連携し、ガンや肝硬変により発生した胸水・腹水を処理する装置を開発し、製造販売承認を取得、上市した。



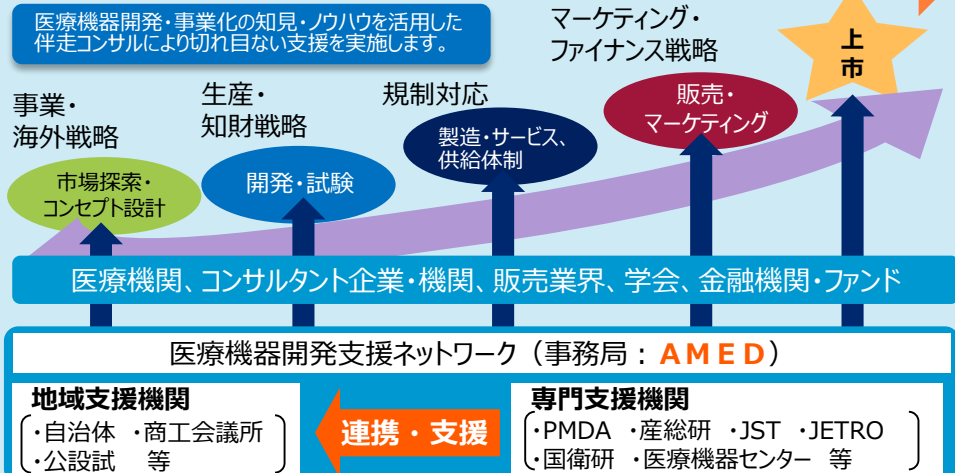
※治験を実施するテーマの補助対象経費の上限を1.5億円/年に増額（これまでは1億円/年）します。

■ベンチャーの参入促進を図るため、VC（ベンチャーキャピタル）による対応が困難なアーリーステージの取り組み（コンセプト作り等）を支援します。

・事業規模：1,500万円/件（委託） 事業期間：1年

### 《医療機器開発支援ネットワーク体制の構築》

#### ネットワークによる伴走コンサル（企業・大学等に対するワンストップ支援）



※J-Startup推薦委員の一部が伴走コンサルとして助言予定